

セラピー効果高い

世界の「スヌーズレン」

博士の講演があり、障害者支援施設や特別支援学校の教師、保

高いセラピー効果とリラクゼーション効果が期待できる「スヌーズレン」をテーマにした講演会が5日(日)午後2時から、津市栗真町屋町の三重大学共通教育190番教室で開かれた。この分野の第一人者であるクリスタ・マーテンス



時(最終日は午後5時まで)。出品者は谷洋明氏、長谷川實氏ほか総勢31名で、多彩な作品を展示。今回の小品展は個人的な力作が勢ぞろい。

「この機会をお見逃しなく!気軽にご来場ください」と代表の谷さんは呼び掛ける。

お問い合わせは、一般社団法人旺玄会三重支部事務所||松阪市曾原町635-2、電話0598

(56) 2555。

育士、理学療法士など約130人が聴講した。ISNA(国際スヌーズレン協会)日本支部(姉崎弘支部長)主催。

講演のテーマは「世界のスヌーズレン」。マーテンス博士は重度障害者にとってセラピー効果が高いことのほか、静けさが保て、五感を研ぎすまし、想像力と創造力を向上できるなど幼児から高齢者までのあらゆる発達段階にある人々に幸福感とリラクゼーション効果が期待できる点が強調された。

スヌーズレンは、五感を適度に刺激する心地よい環境の中で利用者と介助者と環境の3者が相互作用によって快方へ導くもので、利用者の主体的な活動を尊重して行われる。1980年代以降、世界中の研究者や実践者により、例えば知的障害児者や認知症者などに向けたレクリエーションとして、またセラピーや教育活動として実践されている。

日本でも今後は、スヌーズレンが単にレジャーとしてだけでなく、セラピーや教育の面からも研究が行われ、さまざま病気や障害のある人々などの治療や発達支援に役立つことが期待されている。